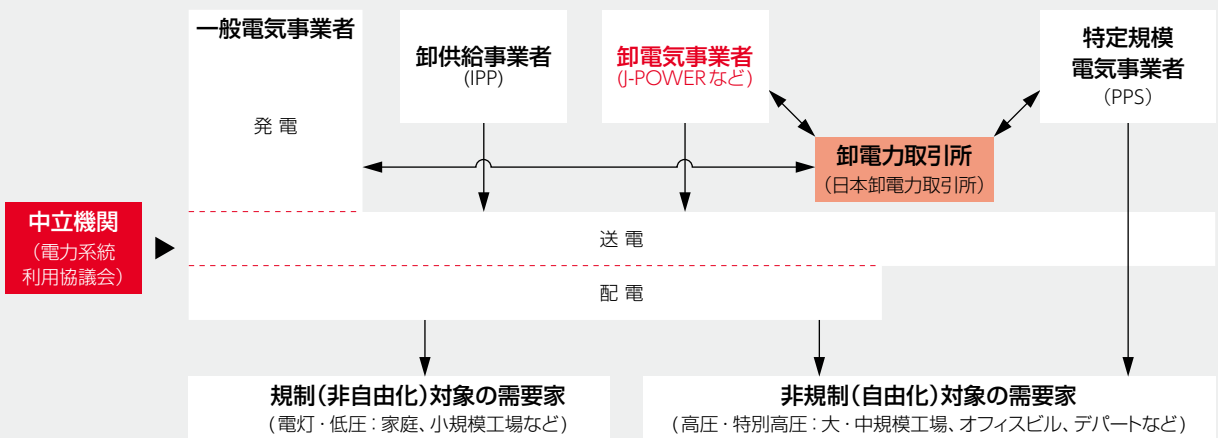


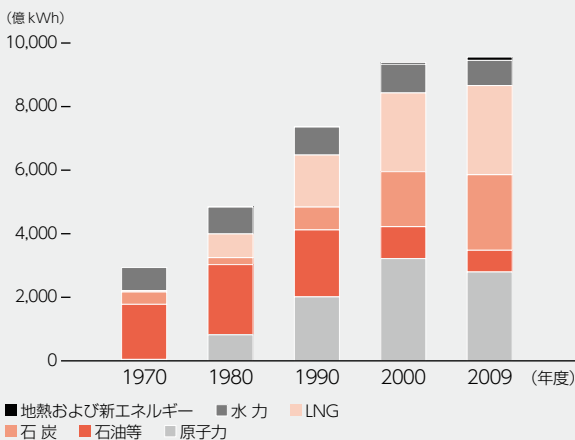
日本の電力供給システム

日本の電気事業は、いわゆる10電力会社である「一般電気事業者」、一般電気事業者へ電気を供給する当社を含む「卸電気事業者」「卸供給事業者」「特定規模電気事業者」などから成り立っています。このうち、卸供給事業者、特定規模電気事業者は、電気事業制度の自由化の流れの中で、1995年以降、電気事業法の改正により制度化された事業者で、電力会社以外の事業者が電力会社への卸供給や電力小売に参入できるようになりました。また、2005年からは日本卸電力取引所(JEPX)での電力取引も開始されました。



電源別の発電電力量の推移

かつては水力発電が主流でしたが、やがて豊富で安価な石油を使った火力発電へと移行。オイルショック以降、発電方式の多様化が求められ、石炭や天然ガス、原子力などの開発と導入により電源のベストミックスを図っています。



(注) 石油等にはLPG、その他ガスおよび瀝青質混合物を含む(受電含む)
発電電力量は10電力会社の合計値(受電含む)

出所: 「電源開発の概要」(資源エネルギー庁)

需要の変化に応じた電源の組み合わせ

日々刻々と変わる電力需要に対し、各種電源の運転特性や経済性を考慮し、最適なバランスで組み合わせ電気を安定的に供給しています。

